FUJIFILM

TX-2

準備編

基本編

応用編

使用説明書

ご使用前に必ずお読みください。

202B10763110 J

特　長

●レンズ交換式・距離計連動デュアルフォーマット（標準／フルパノラマ）カメラ

1. 標準（24mm×36mm）／フルパノラマ（24mm×65mm）の切り替えを装備し、撮影シーンに合わせ、幅広い創作ができます。
2. スーパーEBCフジノンレンズ（交換式）により、クリアでシャープな高画質を実現します。
3. 高精度な二重像合致式距離計でスーパーEBCフジノンレンズをバックアップし、高性能を余すことなく引き出します。
4. レンズ交換に連動してファインダー倍率を変更するファインダー光学系を採用し、フレーミングが容易にできます。
5. ファインダー内にシャッタースピードを表示し、撮影状況に応じてシャッタースピードをファインダーから目を離さずに確認することができます。
6. MODEボタンで多彩な機能設定が可能です。
7. フラッシュ発光タイミングはノーマルシンクロ、リアシンクロから選択できます。
8. 絞り優先AE、マニュアル露出、多様な光線状況にも対応可能な露出補正、露出を変えながら3コマの撮影ができるAEB（Auto Exposure Bracketing）などの多彩な露出技法が駆使できます。
9. ELバックライト方式の液晶照明で、暗い場所での液晶表示確認が容易にできます。

フィルムの現像について

フィルムの現像をご依頼になるときは、下記のことにご注意ください。

●フルパノラマ画面で撮影したフィルムを現像するときは、必ず「長巻き仕上げ」とご指定ください。ご指定のない場合、フルパノラマ画面の途中で切断する恐れがあります。
　＊撮影の途中で標準（24mm×36mm）／フルパノラマ（24mm×65mm）の切り替え可能です。

●フルパノラマ画面で撮影したコマのあるフィルムの現像・プリントは、料金・日数が通常と異なる場合があります。詳しくはお店でご確認ください。

目　次

■この使用説明書の表記について
☞：参考になる情報などの記載
＊：注意などの記載

安全にご使用いただくために

- この製品および付属品は、写真撮影以外の目的に使用しないでください。
- 製品の安全性には十分配慮しておりますが、下記の内容をよくお読みの上、正しくご使用ください。
- この説明書はお読みになった後で、いつでも見られるところに必ず保管してください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

 警告

 絶対に分解しないでください。感電の恐れがあります。

 落下などにより内部が露出したときは、絶対に触れないでください。高圧回路があり感電する恐れがあります。

 カメラ（電池）が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、ただちに電池を取り出してください。発火ややけどの恐れがあります（電池を取り出す際、やけどには十分ご注意ください）。

 フラッシュを人の目に近づけて発光しないでください。一時的に視力に影響することがあります。特に乳幼児を撮影するときは気をつけてください。

 カメラを水中に落としたり、内部に水または金属や異物などが入ったときは、ただちに電池を取り出してください。発熱・発火の恐れがあります。

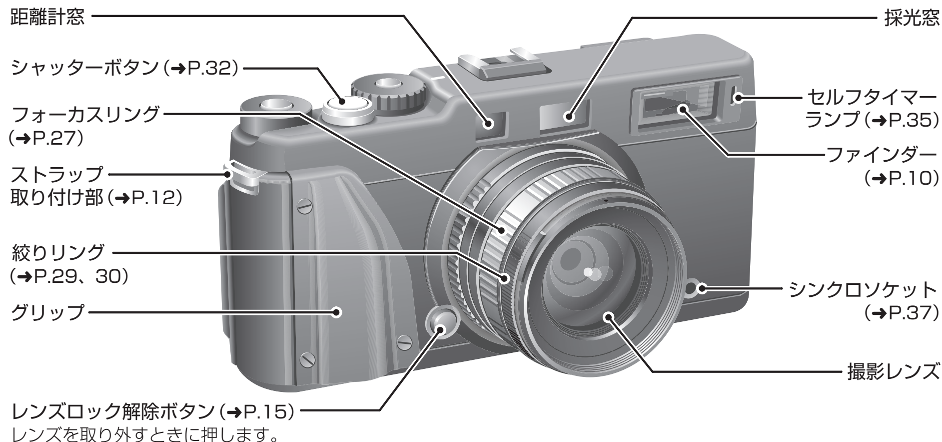
 引火性の高いガスが充満している場所や、ガソリン、ベンジン、シンナーなどの近くでカメラを使用しないでください。爆発や発火・やけどの恐れがあります。

 カメラは乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息する恐れがあります。

⚠ 警告	⚠ 電池の分解、加熱、火中への投入、充電、ショートは絶対にしないでください。破裂の恐れがあります。 ⚠ 指定以外の電池を使わないでください。発熱・発火の恐れがあります。 ⚠ 電池は乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤って飲み込む恐れがあります。万一飲み込んだ場合には、ただちに医師の診察を受けてください。 ⚠ レンズを通して太陽や強い光源を見ないでください。失明の恐れがあります。
⚠ 注意	⚠ カメラをぬらしたり、ぬれた手で触ったりしないでください。感電の原因となることがあります。 ⚠ 自転車や自動車・列車などを運転している人に向けて、フラッシュ発光撮影をしないでください。交通事故などの原因となることがあります。 ⚠ 電池の⊕⊖を誤って装てんしないようにご注意ください。電池の破裂、液もれにより、発火、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。 ⚠ レンズを太陽光の当たる場所に放置しないでください。太陽光が集光した場合には高温になり、発火ややけどの原因になる恐れがあります。 ⚠ カメラを三脚に取り付けたまま持ち運ばないでください。けがをしたり、カメラを破損する恐れがあります。

各部の名称

＊(　)内のページに詳しい説明があります。



Aモードロック解除ボタン（➜P.30）
絞り優先AEモードを解除し、任意のシャッタースピードを設定するときに押します。

シャッタースピードダイヤル（➜P.30）
A ：絞り優先AEになります。
数値（B、8 ～ 1000）：任意のシャッタースピードを設定できます。

ホットシュー（➜P.36）

フィルム位置マーク

レリーズソケット（➜P.46）

ファインダーアイピース（➜P.17）

ファインダーアイピースロック解除ボタン（➜P.17）

裏ぶた開放つまみ（➜P.21、33）

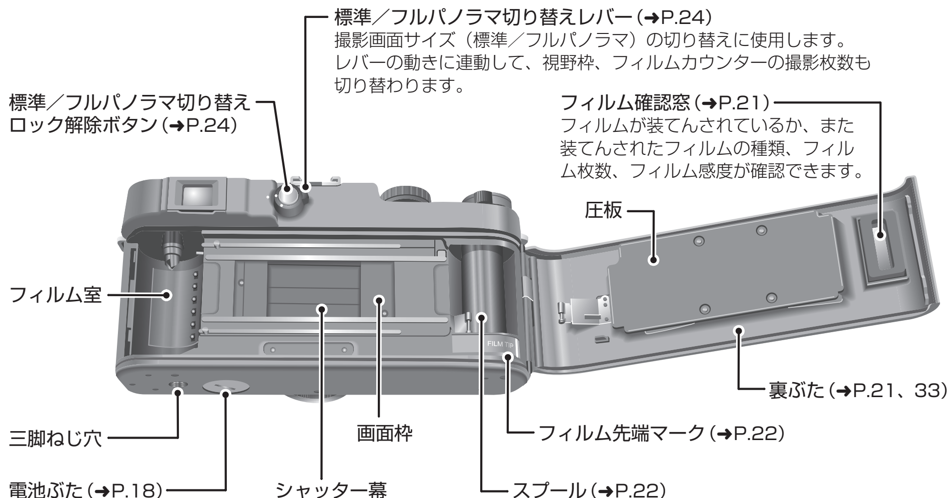
電源OFFロック解除ボタン（➜P.19）

モードダイヤルレバー（➜P.19、34）
電源のON／OFF、フィルム給送モードの切り替え、セルフタイマーの設定をします。
OFF：電源が切れます。
S ：シングルモード
シャッターボタンを押すごとに1コマずつシャッターが切れます。
C ：コンティニュアスモード
シャッターボタンを押している間、連続的にシャッターが切れます。
セルフタイマー記号：セルフタイマー撮影できます。

〈フィルムカウンター表示部〉
フルパノラマ設定マーク（➜P.24）
撮影可能残数表示（➜P.25）

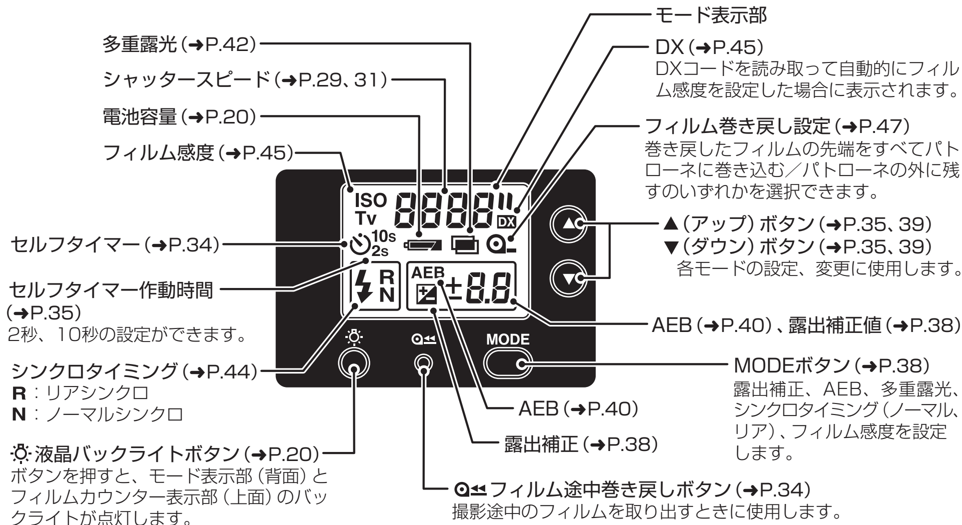
モードパネル（➜P.9）

各部の名称



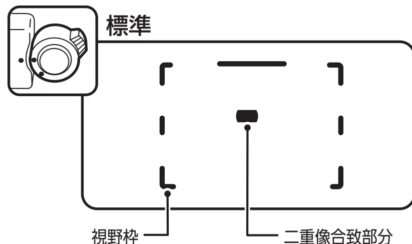
標準／フルパノラマ切り替えレバー（➜P.24）
撮影画面サイズ（標準／フルパノラマ）の切り替えに使用します。
レバーの動きに連動して、視野枠、フィルムカウンターの撮影枚数も
切り替わります。
標準／フルパノラマ切り替え
ロック解除ボタン（➜P.24）
フィルム確認窓（➜P.21）
フィルムが装てんされているか、また
装てんされたフィルムの種類、フィル
ム枚数、フィルム感度が確認できます。
圧板
フィルム室
FILM TIP
裏ぶた（➜P.21、33）
画面枠
フィルム先端マーク（➜P.22）
三脚ねじ穴
電池ぶた（➜P.18）
シャッター幕
スプール（➜P.22）

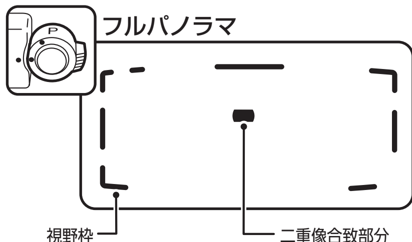
●モードパネル（すべての表示が現れている状態）



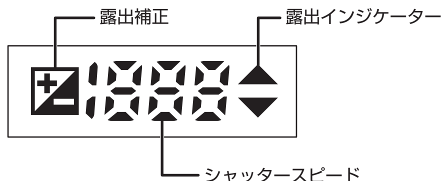
●ファインダー

標準／フルパノラマ切り替えレバーで撮影画面サイズを切り替えると、視野枠が切り替わります。





●ファインダー表示部



■露出インジケーターの見方

●絞り優先AEモード時

シャッタースピードと▲または▼が点滅	露出連動範囲外

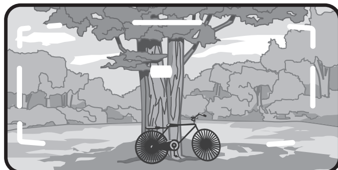
●マニュアル露出時

▲オーバー	シャッタースピード点滅	▲点滅	露出連動範囲外
	シャッタースピード点灯	▲点滅	適正露出に対して1.0ステップ以上オーバー
	シャッタースピード点灯	▲点灯	適正露出に対して0.5ステップオーバー
▲▼適正露出	シャッタースピード点灯	▲▼点灯	適正露出
▼アンダー	シャッタースピード点灯	▼点灯	適正露出に対して0.5ステップアンダー
	シャッタースピード点灯	▼点滅	適正露出に対して1.0ステップ以上アンダー
	シャッタースピード点滅	▼点滅	露出連動範囲外

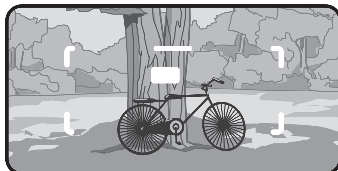
●ファインダー倍率について

レンズを交換すると、連動してファインダー倍率が変わります。

<45mmレンズ>　ファインダー倍率：0.45倍

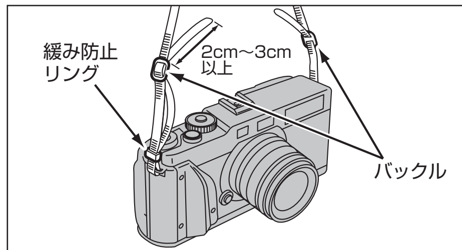


<90mmレンズ>　ファインダー倍率：0.66倍



＊ファインダー倍率は30mmレンズには連動しません。30mmレンズ使用時は、付属の専用ビューファインダーをご使用ください。

ストラップの取り付け

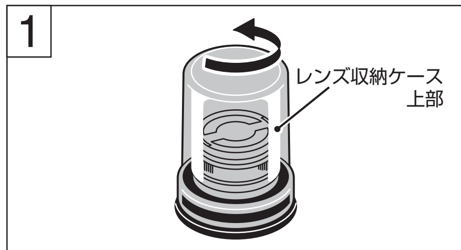


ストラップ取り付け部にストラップの先端を通し、緩み防止リング→バックルの順に通して取り付けます。

＊ストラップは使いやすい長さに調節します。このとき、ストラップの先端がバックルから2cm～3cm以上は出るようにしてください。

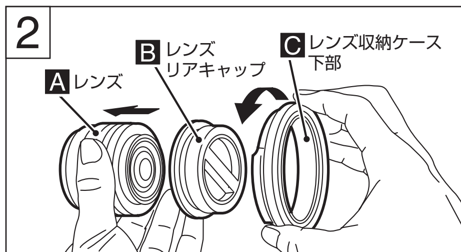
＊ストラップの先端を緩み防止リングに通すとき、ストラップの先端を固定して緩み防止リングの方を動かすと、比較的容易に通せます。

レンズ収納ケースからレンズを取り出す



レンズ収納ケース上部（カバー部）を矢印方向に回して外します。

※45mmレンズ、90mmレンズの場合



❶レンズAをしっかり持って、レンズ収納ケース下部Cを矢印方向に回します。

☞一度手応えがあります。

❷さらに矢印方向に回すと、レンズA、レンズリアキャップB、レンズ収納ケース下部Cのそれぞれすべてが外れます。

レンズ、レンズリアキャップ、レンズ収納ケース下部をすべて外すとき、レンズリアキャップを落とさないようにご注意ください。

レンズを持ち運ぶときには、フロントレンズキャップ、レンズリアキャップを取り付けてください。

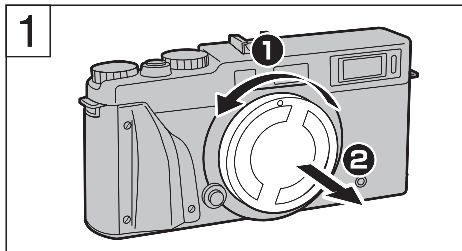


- レンズを保管するときは、レンズ収納ケースに入れてください。
- レンズ単体で放置する場合、傷や汚れからレンズを保護するため、レンズキャップとレンズリアキャップを取り付けてください。

レンズの取り付け／取り外し

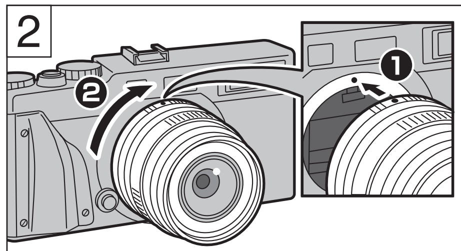
レンズの取り付け

1



ボディキャップを反時計回りに回して外します。

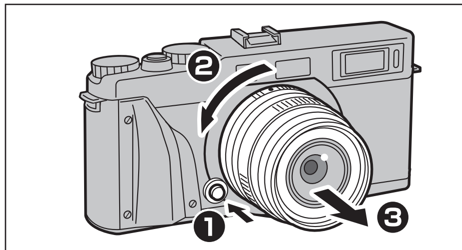
2



レンズをしっかり持ち、
❶レンズ側の赤い指標とカメラ側の赤い指標を合わせて、レンズをまっすぐはめ込みます。
❷カチッと音がするまでレンズを時計回りに回し、取り付けます。

光カブリやごみ、ほこりなどの付着防止のため、レンズを取り付けていないときは必ずボディキャップを取り付けてください。

レンズの取り外し



レンズをしっかり持ち、
❶レンズロック解除ボタンを押しながら、
❷レンズを反時計回りに回します。
❸レンズを前方に外します。

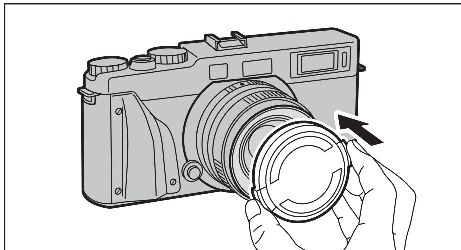
レンズを外したままカメラを放置しないでください。レンズを外したときは、必ずボディキャップを取り付けてください。

レンズフィルターについて

45mmレンズ、90mmレンズの場合はフィルター径49mm、30mmレンズの場合はフィルター径58mmの市販フィルターをご使用ください。

- フィルターは、45mmレンズ、90mmレンズの場合は1枚まで、30mmレンズの場合は専用センターフィルターTX30mm（別売）＋1枚でご使用ください（フィルターを重ねて使用すると、画面ケラレの原因となります）。
- TTLダイレクト測光（レンズを通った光を測光）のため、PLフィルターなどの露出倍数があるフィルター使用時でも露出補正は不要です。

レンズキャップの着脱

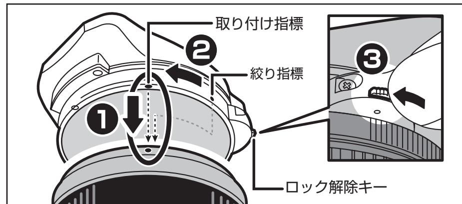


レンズキャップ左右の2カ所のつまみを内側に押しながら、レンズ先端のねじ部に取り付けたり、取り外したりします。

＊撮影するときは、レンズキャップが外されていることを確認してください。レンズキャップを付けたまま撮影しようとすると、ファインダー表示部の“▼”とシャッタースピード、モード表示部のシャッタースピードが点滅します。
＊レンズへの傷、ごみ、ほこりなどの付着防止のため、撮影しないときは必ずレンズキャップを取り付けてください。
＊レンズが汚れているときは、51ページを参照して、レンズをきれいにふいてください。

レンズフードの取り付け

※45mmレンズ、90mmレンズの場合



専用のレンズフードが必要です。

❶レンズ先端部の赤い指標とレンズフードの赤い取り付け指標を合わせます。
❷レンズフードを矢印方向にカチッと音がするまで回します。

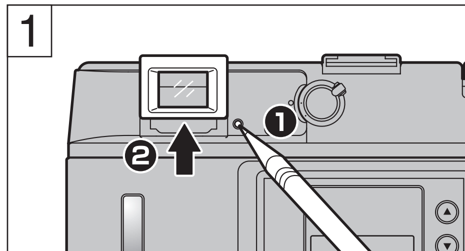
☞レンズフードがロックされていることを確認してください。

＊専用のレンズフード（45mm、90mmレンズ用：レンズフードTX-2（別売）、30mmレンズ用：付属）以外は使用できません。
＊レンズフードはバヨネット式です。
＊レンズフードを使用するとファインダー右下がケラレますが、写真には影響ありません。

❸**レンズフードを取り外すときは、**
レンズフードのロック解除キーを押しながら、レンズフードを図❷矢印の反対方向に回します。

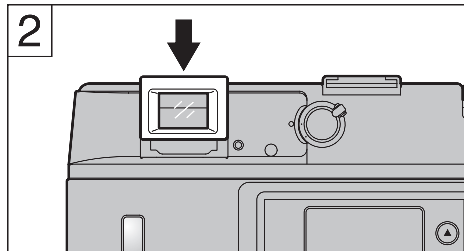
ファインダーアイピースの着脱

付属のファインダーアイピースは、−0.1D（ディオプター）です。ファインダー像がはっきり見えない場合は、別売の視度調節レンズをご使用ください。



❶ファインダーアイピースロック解除ボタンを押しながら、
❷ファインダーアイピース枠の下側の切り欠き部から上にファインダーアイピースをスライドさせ、取り外します。

＊カメラ本体のファインダーレンズを汚さないように注意して交換してください。



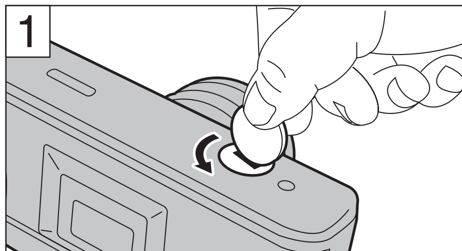
視度調節レンズをファインダーアイピース取り付けガイドに合わせ、カチッと音がするまでスライドさせて取り付けます。

●視度調節レンズ（別売）について
- ●45mm、90mmレンズ用：視度調節レンズTX-2（＋2D、＋0.5D、−2D、−3D、−4D）
- ●30mmレンズ用：視度調節レンズGWシリーズ用（＋2D、＋0.5D、−2.5D、−4D）があります。

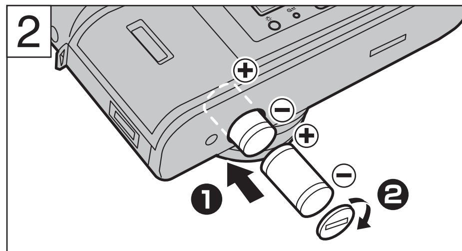
＊近視の方：−側、遠視の方：+側が適しています。

電池を入れる

■使用する電池：リチウム電池　CR2　2本



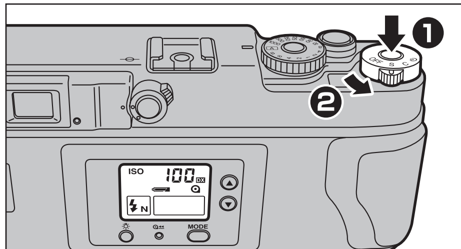
❶モードダイヤルレバーが “OFF” になっていることを確認します。
❷電池ぶたをコインなどで矢印方向に回して取り外します。



❶表示に従って、⊕側から電池を入れます。
❷電池ぶたをコインなどで押し付けながら矢印方向に回し、電池ぶたを閉めます。

●電池を誤装てんしたときは作動しません。
●電池交換時には必ず2本とも新しい、同じ銘柄・種類のものを使用してください。新旧電池の混合使用は避けてください。

電源を入れる（フィルム給送モードなどの選択）



❶電源OFFロック解除ボタンを押しながら、
❷モードダイヤルレバーを"S""C""Ò"に合わせます。

☞背面のモード表示部が表示されます。

■モードダイヤルについて

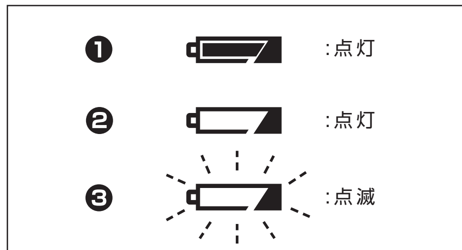
モード		内　容
OFF	電源OFF	電源が切れます。
S	シングルモード	シャッターボタンを押すごとに1コマずつシャッターが切れます。
C	コンティニュアスモード	シャッターボタンを押している間、連続的にシャッターが切れます。
Ò	セルフタイマーモード	セルフタイマー撮影できます（→34ページ）。

＊電源を切るときは、モードダイヤルレバーを"OFF"にしてください。

＊電源を入れたまま約3分間放置すると、モード表示部が消え、省電状態に入ります。次のいずれかの方法で電源ON状態に復帰できます。

- シャッターボタンを半押しする。
- MODEボタンを押す。
- 一度電源を"OFF"にし、もう一度電源を入れる。

電池容量のチェック



電源を入れ、モード表示部で電池容量をチェックします。

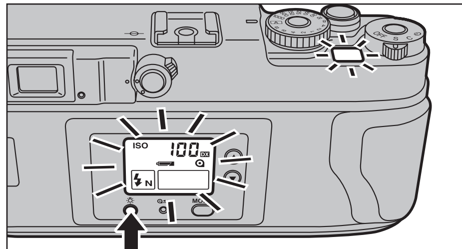
❶電池容量はOKです。

❷電池の容量が不足しています。新しい電池を準備してください。

❸電池容量がなくなったため、シャッターは切れません。新しい電池に交換してください。

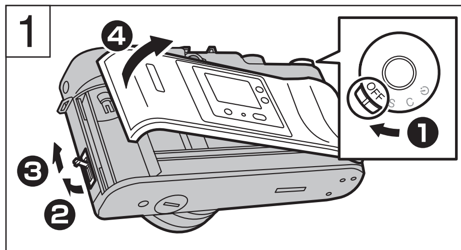
＊2本の新品リチウム電池で約3000ショット撮影できます(当社試験条件による)。

液晶表示部のバックライト



☼ボタンを押すと、約5秒間モード表示部とフィルムカウンター表示部のバックライトが点灯します。もう一度押すと、すぐに消灯します。

フィルムを入れる

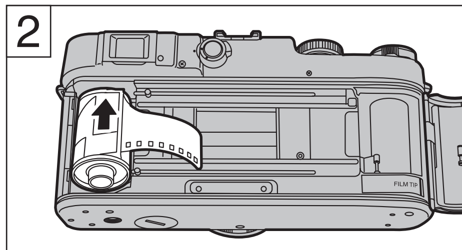


フィルム確認窓からフィルムが装てんされていないことを確認します。

❶電源を“OFF”にします。
❷裏ぶた開放つまみを起こします。
❸裏ぶた開放つまみを矢印方向に動かします。
❹裏ぶたを開けます。

＊フィルム装てん中の誤動作を防止するため、フィルムを装てんするときには必ず電源を“OFF”にしてください。

＊シャッター幕を指で触れたり、フィルムの先端で突っついたりしないでください。

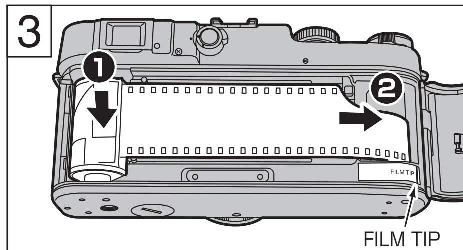


図のようにパトローネを斜めにして、フィルムを押し込むように入れます。

■使用するフィルム
35mmフィルム（135パトローネ入り）

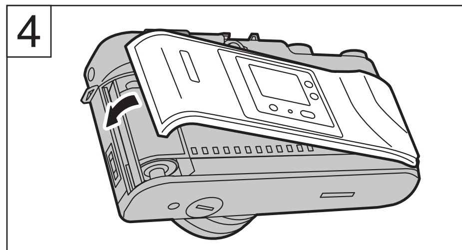
＊フィルムの装てん・取り出しは、直射日光を避けて行ってください。

フィルム感度を“AutoDX”にセットしているときにDXコードのないフィルムを装てんすると、フィルムは送られません。フィルムを装てんする前にマニュアルでフィルム感度を設定してください（→45ページ）。



❶パトローネを押さえながら、
❷フィルムの先端をFILM TIPマーク（緑のライン）まで引き出し、スプールの上にのせます。

＊フィルムが浮き上がらないように、パトローネの角度を調節してください。
＊フィルムを長く引き出し過ぎたときは、フィルムを一度取り出して、長さを調節してください。
＊フィルムを長く引き出し過ぎると、撮影最終コマが光カブリを起こしますので、必要以上に長く引き出さないでください。



裏ぶたを閉めます。

☞自動的にフィルムがすべて巻き上げられます（プレワインド）。
☞プレワインド中、フィルムカウンターがカウントアップし、モード表示部にはフィルム感度が表示されます。

プレワインドが終了すると、モード表示部は消灯します。電源を入れると、フィルムカウンターに撮影可能枚数、モード表示部にフィルム感度が表示されます。

＊“DX”は、フィルム感度の設定を“AutoDX”にセットし、DXコードのあるフィルムを装てんしたときに表示されます。

■撮影可能枚数

	36EXP	24EXP	12EXP
標準	36枚	24枚	12枚
フルパノラマ	20枚	13枚	6枚

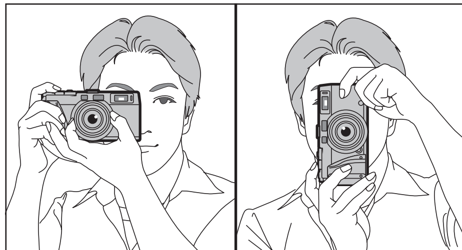
＊フィルムによって撮影可能枚数が変わることがあります。
＊フルパノラマサイズを選択したときは、フィルムカウンター表示部に"P"とフルパノラマサイズでの撮影可能枚数が表示されます。
＊フィルムが装てんされているときは、電源がOFFになっていてもフィルムカウンターに枚数が表示されます。

●フィルムカウンター表示部に枚数が表示されない場合は、フィルムが正しく送られていません。撮影可能なフィルムを正しく装てんし直してください。
●フィルム給送中に異常が起こると、フィルムカウンターが点滅し、シャッターロックが掛かります。巻戻しボタンを押してフィルムを巻き戻し、取り出してください。
●フィルム感度を"AutoDX"にセットしているときにDXコードのないフィルムを装てんすると、フィルムは送られません。一度裏ぶたを開け、マニュアルでフィルム感度を設定してから(→45ページ)、再度フィルムを装てんしてください。

●正常にフィルムが装てんされた場合は、裏ぶたを開けないでください。
☞フィルムが感光する恐れがあります。
＊裏ぶたを開けてしまったら、そのまま裏ぶたを閉めてください。自動的にフィルムが巻き戻され、"E"が点滅します。本機はプレワインディング方式を採用しているため、巻き戻されたフィルムは使用できませんが、最後に撮影した1コマ以外は光カブリから守られています(電源OFFのとき、"E"は表示されません)。

基本編

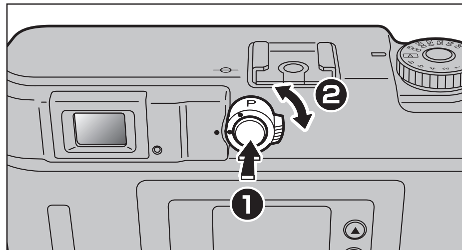
カメラの構え方



両脇をしっかり締めてカメラを固定します。

＊採光窓や距離計窓にストラップなどが掛からないようにご注意ください。ファインダー内の表示が見にくくなります。

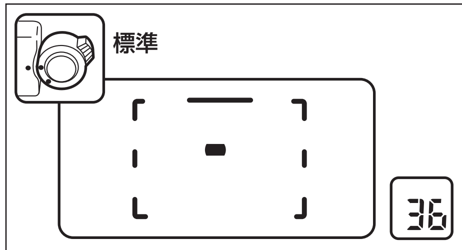
撮影画面サイズ（標準／フルパノラマ）の切り替え

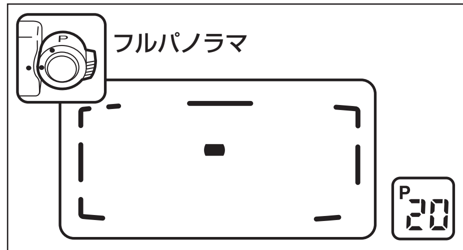


❶標準／フルパノラマ切り替えロック解除ボタンを押しながら、

❷標準／フルパノラマ切り替えレバーを回します。

☞ファインダー内の視野枠、フィルムカウンター表示部が切り替わります。





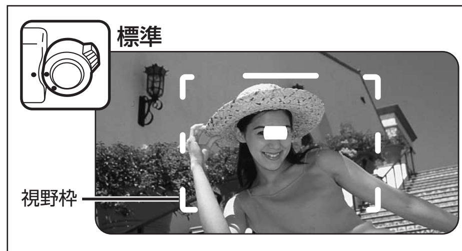
＊撮影画面サイズを切り替えるとフィルム位置検知音がしますが、異常ではありません。
＊標準／フルパノラマ切り替えレバーが中間で止まっていると、フィルムカウンター表示部の“P”が点滅し、シャッターロックが掛かります。
＊撮影画面サイズを切り替えても短辺画角は変わりません。
＊標準サイズで撮影可能枚数が“1”のときにフルパノラマサイズに切り替えると、フィルム残数が足りないため、フィルムカウンター表示部の“P”が点滅し、シャッターロックが掛かります。

撮影画面サイズと焦点距離

画面サイズ	焦点距離		
標準 (24mm×36mm)	30mm	45mm	90mm
フルパノラマ (24mm×65mm)	長辺16.7mm 相当	長辺25mm 相当	長辺50mm 相当

構図の決め方

視野枠内に見える範囲がフィルムに写し込まれます。写したいものが視野枠の中に入るように構図を決めます。

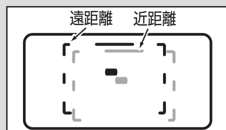




45mmレンズ、90mmレンズ使用時は、レンズを交換すると、連動してファインダー倍率が変わります(→11ページ)。

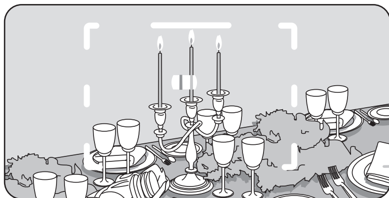
＊30mmレンズ使用時、ファインダー倍率は連動しません。付属の専用ビューファインダーをご使用ください。

視野枠は撮影距離に応じて移動し、パララックスを自動的に補正します。

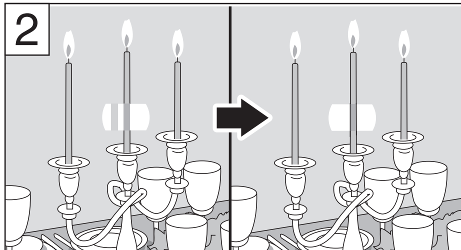


遠距離の場合：■
近距離の場合：■

ピントの合わせ方



ファインダーをのぞき、二重像合致部分を利用してピントを合わせます。



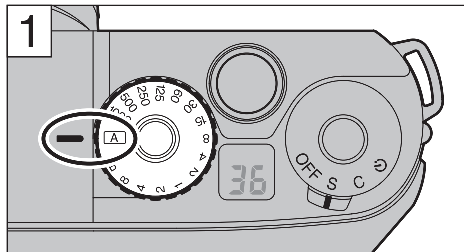
二重像合致部分を見ながらフォーカスリングを回し、二重像が合致したらピント合わせは完了です。

＊ファインダーアイピースを斜めからのぞくと、二重像合致部分がズレて見え、測距不良の原因となります。ファインダーアイピースの真正面からのぞいてください。

絞り優先AE

絞り値を決めると、カメラが自動的にシャッタースピードを合わせます。被写界深度を利用した撮影に使用します。

- ●絞りを開ける：被写界深度が浅くなります。
  ☞ポートレート撮影など、背景をぼかし、被写体だけにピントを合わせたいときなどに使用します。
- ●絞りを絞る：被写界深度が深くなります。
  ☞遠景撮影、近接撮影など、近距離から遠距離まで広い範囲にピントを合わせたいときに使用します。



シャッタースピードダイヤルを"A"に合わせます。

＊シャッタースピードダイヤルは "A" の位置でロックが掛かります。

被写界深度とは

被写体にピントを合わせたとき、その前後にもピントが合う範囲があります。この範囲を「被写界深度」といいます。

- ●「被写界深度が深い」: ピントの合う範囲が広い。
- ●「被写界深度が浅い」: ピントの合う範囲が狭い。

＊被写界深度表は50ページをご参照ください。

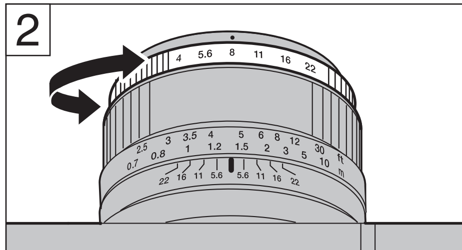
●性質

❶絞りが開放に近づくにともない被写界深度は浅くなり、絞り込むほど被写界深度は深くなります。

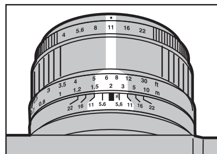
❷撮影距離が遠くなるほど被写界深度は深く、近いほど浅くなります。

❸ピントを合わせた被写体の前方深度（近い側）は、後方深度（遠い側）より浅くなります。

❹同じ絞り値では、焦点距離の短いレンズほど被写界深度は深く、焦点距離が長いほど被写界深度は浅くなります。



絞りリングを回して絞り値を設定します。

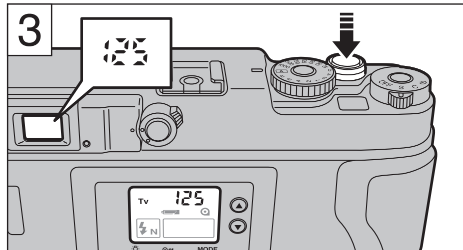


●レンズの深度目盛り

例）45mmレンズで撮影距離を2mにセットしたとき、絞り値F11では約1.5m～3mのものがほぼ鮮明に写ります。

＊深度目盛りは、目測撮影、置きピン撮影に利用すると便利です。

暗いところで撮影するとき、絞り値によってはスローシャッターになりますので、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。



シャッターボタンを半押しすると、測光を開始します。

☞シャッタースピードが自動的に決まり、ファインダー表示部、モード表示部に表示されます。

☞シャッタースピードが点灯すれば、適正露出です。

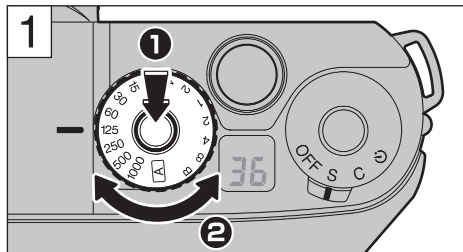
- シャッタースピード、“▲”ともに点滅した場合：オーバーです。絞りを絞ってください。
- シャッタースピード、“▼”ともに点滅した場合：アンダーです。絞りを開けてください。

＊シャッターボタンの半押しを解除しても、約25秒間は測光し続けます。その間、ファインダー表示部とモード表示部のシャッタースピードが表示され続けます。

シャッターボタンを半押しのまま保持すると、AEロックになります。

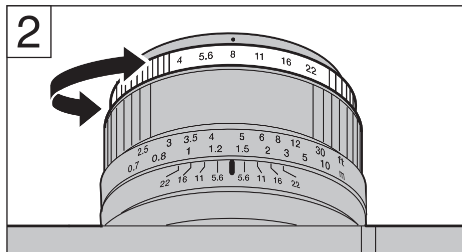
マニュアル露出

撮影者の意図的な露出表現をするとき、逆光など絞り優先AEでは不適な被写体の撮影時の露出設定に使用します。



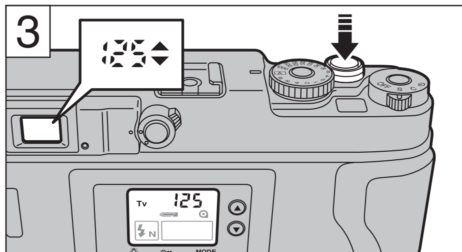
❶Aモードロック解除ボタンを押しながら、
❷シャッタースピードダイヤルを回して、シャッタースピードを設定します。

＊シャッタースピードダイヤルは“A”以外の位置ではロックが掛かりません。
＊シャッタースピードはクリックのあるところにセットしてください。中間にセットすると、露出不良の原因になります。



絞りリングを回して絞り値を設定します。

3



シャッターボタンを半押しすると、測光を開始します。

☞ファインダー表示部にシャッタースピードと露出インジケーター、モード表示部にシャッタースピードが表示されます。

＊シャッターボタンの半押しを解除しても、約25秒間は測光し続けます。その間、ファインダー表示部とモード表示部のシャッタースピードが表示され続けます。

シャッターボタンを半押しのまま保持すると、AEロックになります。

ファインダー内の露出インジケーターの見方

▲▼ 適正露出	シャッタースピード点灯	▲▼点灯	適正露出

▲ オーバー	シャッタースピード点滅	▲点滅	露出連動範囲外
	シャッタースピード点灯	▲点滅	適正露出に対して 1.0ステップ以上オーバー
	シャッタースピード点灯	▲点灯	適正露出に対して 0.5ステップオーバー

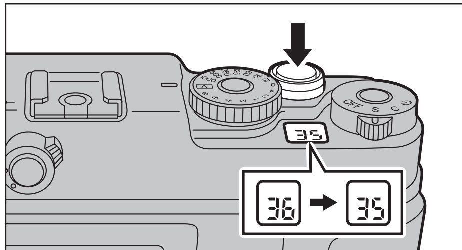
☞絞りを絞るか、シャッタースピードを速くしてください。

▼ アンダー	シャッタースピード点灯	▼点灯	適正露出に対して 0.5ステップアンダー
	シャッタースピード点灯	▼点滅	適正露出に対して 1.0ステップ以上アンダー
	シャッタースピード点滅	▼点滅	露出連動範囲外

☞絞りを開けるか、シャッタースピードを遅くしてください。

＊露出連動範囲外のときは、モード表示部のシャッタースピードも点滅します。

撮影



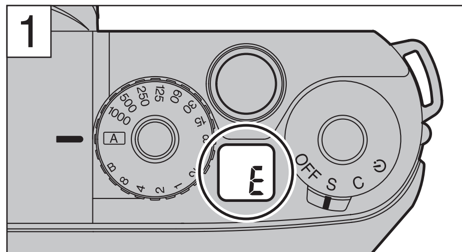
ピント(→27ページ)、露出(→28、30ページ)を合わせ、シャッターボタンを静かに押します。

☞シャッターが切れると、選択した撮影画面サイズに合わせてフィルムが送られ、フィルムカウンターが逆算表示されます。

＊撮影するごとにフィルムはパトローネ内に巻き込まれます。

撮影するときは、レンズキャップが外されていることを確認してください。レンズキャップを付けたまま撮影しようとすると、ファインダー表示部の"▼"とシャッタースピード、モード表示部のシャッタースピードが点滅します。

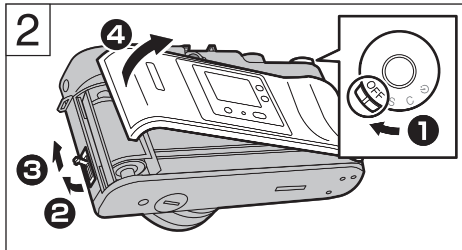
フィルムを取り出す



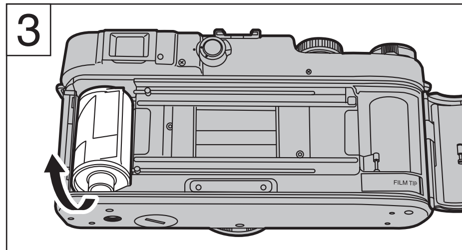
最後の1コマを撮り終わると、フィルムがすべてパトローネに巻き込まれます。

☞巻き戻しが完了すると、フィルムカウンターに"E"が表示されます。

裏ぶたを開けるときは、必ずモーターが止まり、"E"が表示されたことを確認してください。"E"が表示される前に裏ぶたを開けようとすると、フィルムが感光する恐れがあります。



モーターが止まり“E”が表示されたことを確認してから、
❶電源を“OFF”にします。
❷裏ぶた開放つまみを起こします。
❸裏ぶた開放つまみを矢印方向に動かします。
❹裏ぶたを開けます。

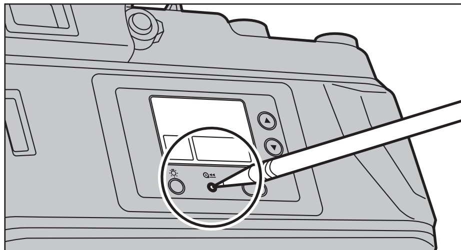


フィルムを取り出します。

基本編

＊巻き戻したフィルムの先端をパトローネの外に残したいときは、フィルム巻き戻し方式を“out Q_”に設定してください(→47ページ)。

撮影途中でフィルムを取り出す

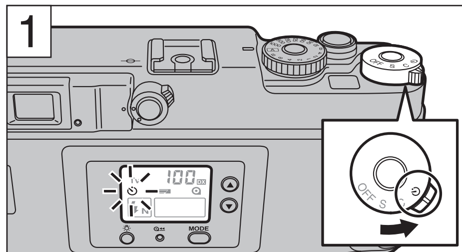


⊙◂◂ボタンを押します。

☞フィルムがすべてパトローネに巻き込まれます。
☞巻き戻しが完了すると、フィルムカウンターに“E”が表示されます。

モーターが止まり“E”が表示されたことを確認してからフィルムを取り出してください。

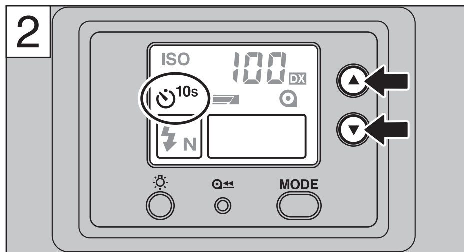
セルフタイマー撮影



モードダイヤルレバーを“🕑”に合わせます。

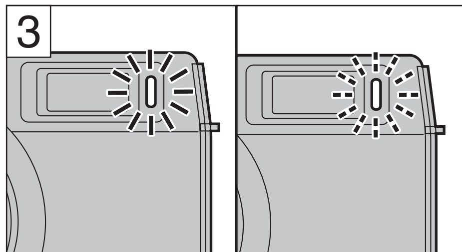
☞モード表示部に“🕑”が表示されます。

＊セルフタイマー撮影するときは、三脚などを使用してください。



▲▼ボタンを押して、セルフタイマー作動時間を選択します。

☞“**10s**”10秒、“**2s**”2秒から選択できます。



ピント、露出を合わせ、シャッターボタンを押します。

☞“**10s**”選択時：セルフタイマーランプが約7秒間点灯→約3秒間点滅した後、シャッターが切れます。

☞“**2s**”選択時：セルフタイマーランプが約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。

＊絞り優先AE撮影のとき、カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。露光不良になることがあります。

＊スタートしたセルフタイマーを解除したいときは、モードダイヤルレバーを“🕓”以外にしてください。

フラッシュ撮影

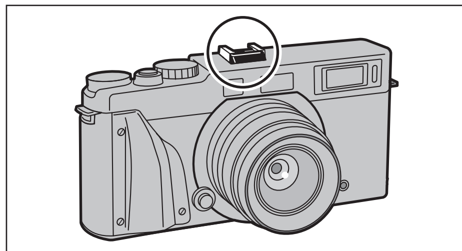
●フルパノラマサイズでフラッシュ撮影するときは、下表をカバーする画角の広いフラッシュをご使用ください。

フルパノラマ時	長辺画角	35mm判相当
f=30mm	94.1°	f=16.7mm
f=45mm	71.0°	f=25mm
f=90mm	39.5°	f=50mm

- フラッシュの使用方法は、フラッシュの使用説明書に従ってください。
- マニュアルフラッシュ使用時の絞り値は

絞り値(FNo.) = $\frac{\text{ガイドナンバー}}{\text{撮影距離}}$ で算出します。

クリップオンタイプの小型フラッシュを使用

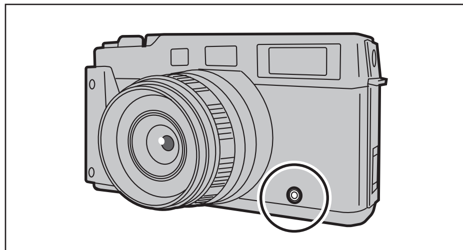


ホットシューにフラッシュを取り付けます。

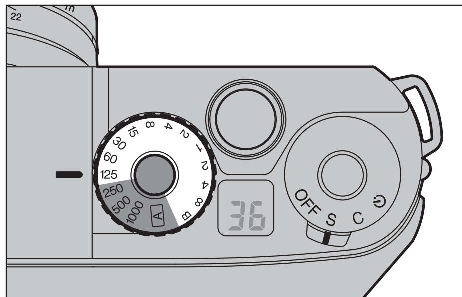
＊30mmレンズ使用時はホットシューに専用ビューファインダーを取り付けるため、ホットシューを利用したフラッシュ撮影はできません。

他のカメラ用の信号ピン付きフラッシュを取り付けると、フラッシュが外せなくなったり、カメラの故障の原因となる場合がありますので、使用しないでください。

コード式のフラッシュを使用



シンクロソケットキャップを取り外し、シンクロソケットにフラッシュコードを差し込みます。



フラッシュ同調スピードは1/125秒以下です。フラッシュ使用時はシャッタースピードを1/125秒以下に合わせてください。

＊シンクロ接点はX接点になっています。

モードの選択

MODEボタンを約1秒間押すと、露出補正、AEB、多重露光、シンクロタイミング、フィルム感度が設定できます。

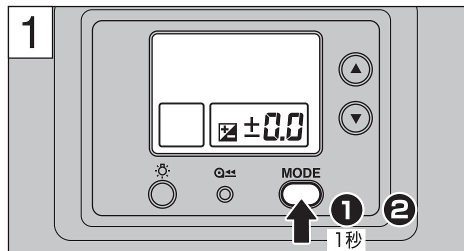
■MODEボタンで設定できる内容

モード		内　容	参照ページ
±	露出補正	露出を意図的に変えたいときに使用します。	38
AEB	AEB	適正露出→アンダー→オーバーの計3コマを連続して撮影できます。	40
▬	多重露光	撮影後もフィルムを給送せず、同じコマに数回撮影できます。	42
⚡N	ノーマルシンクロ	シャッターの先幕が開いたときにフラッシュが発光します。	44
⚡R	リアシンクロ	シャッターの後幕が閉じる直前にフラッシュが発光します。	44
ISO	フィルム感度	フィルム感度の設定をします。	45

☞MODEボタンを約1秒間押して各種モード設定に入った後、MODEボタンを押すごとに “**ISO**” フィルム感度設定→ “±” 露出補正→ “**AEB**” AEB→ “▬” 多重露光→ “⚡” シンクロタイミングの順で表示されます。

＊最後に設定したモードが最初に表示され、設定できるようになっています。

露出補正



❶電源を入れ、MODEボタンを約1秒間押します。

☞設定できるモード以外の表示が消え、各種モード設定に入ります。

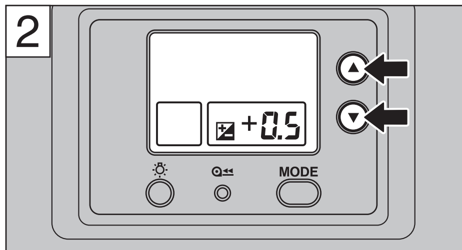
❷MODEボタンを押して、“±” を表示します。

☞露出補正の設定に入ります。

＊絞り優先AE、マニュアル露出のいずれの場合も、露出補正の設定をした値を基準に露出表示します。

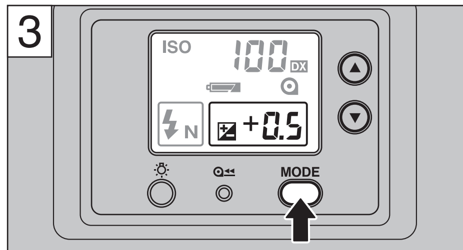
＊絞り優先AE時に露出補正をかけると、シャッタースピードが変わります。

露出を意図的に変えたいときに使用します。また、逆光で被写体が暗く写ってしまう場合、被写体にスポット光が当たって被写体がオーバーになってしまう場合などに露出補正すると、適正な露出で撮影できます。



▲▼ボタンを押して、内容を変更します。

■設定可能値
+2.0、+1.5、+1.0、+0.5、
−0.5、−1.0、−1.5、−2.0



MODEボタンを押して登録します。

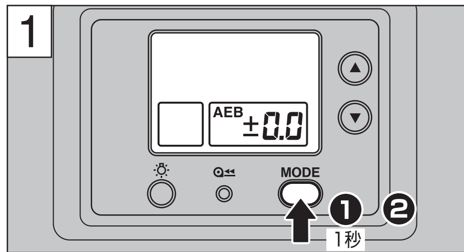
☞設定が登録され、次の項目の設定に移ります。
☞ファインダー表示部に "☒" が表示されます。

＊シャッターボタン半押し、または5秒間無操作でも登録できます。この後、撮影時の表示に変わります。

露出補正モードは撮影後も保持されます。
露出補正モードは次の方法で解除できます。
● MODEボタンと▲▼ボタンを押し、"☒" を消灯させる。

AEB撮影

AEB (Auto Exposure Bracketing) 撮影では、適正露出を基準に、適正露出→アンダー→オーバーの計3コマを連続して撮影できます。リバーサルフィルムを使用した撮影や微妙な色合いを表現したいときに有効です。



❶電源を入れ､MODEボタンを約1秒間押します。

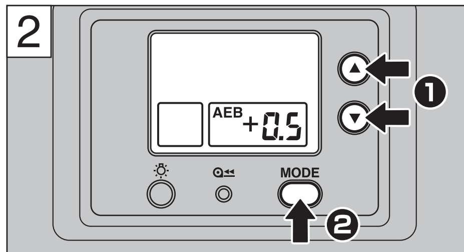
☞設定できるモード以外の表示が消え、各種モード設定に入ります。

❷MODEボタンを押して､“**AEB**”を表示します。

☞AEBの設定に入ります。

＊AEB撮影時にシャッタースピードが1/1000秒、または8秒を超える撮影はできません。AEB撮影時に1/1000秒、8秒を超える場合には “**AEB**” が点滅し、シャッターロックが掛かります。

- フィルムの撮影可能枚数が2コマ以下のときは、AEBモードを設定できません。
- 多重露光モード設定時(→42ページ) はAEBモードを設定できません。



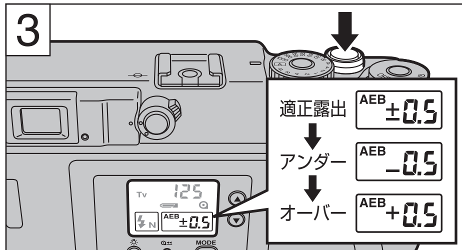
❶▲▼ボタンを押して､AEB補正量を選択します。
❷MODEボタンを押して登録します。

☞設定が登録され、次の項目の設定に移ります。
☞ファインダー表示部に “☒” が表示されます。

＊シャッターボタン半押し、または5秒間無操作でも登録できます。この後、撮影時の表示に変わります。

■設定可能値：±0.5、±1.0

＊絞り優先AE、マニュアル露出のいずれの場合も、適正露出が表示され、実際に撮影するシャッタースピードは表示されません。
＊AEBをかけると、シャッタースピードが変わります。
＊露出補正とAEBの両方を設定すると、露出補正した露出を基準にAEB撮影を行います。モード表示部にはAEBの設定値が表示されます。

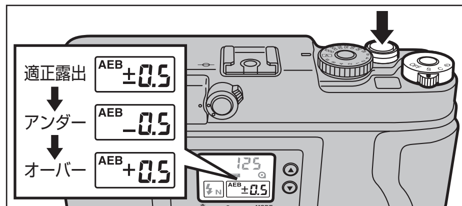


シャッターボタンを押します。

☞適正露出→アンダー→オーバーの順に撮影されます。
☞モード表示部は、“±”→“−”→“+”の順に切り替わります。

＊1コマ目の撮影時に露出がロックされ、ロックされた露出を基準にアンダー、オーバーで撮影されます。

シャッターボタンを押し続けると



適正露出→アンダー→オーバーの順に連続してシャッターが切れます。

＊連続撮影の途中でシャッターボタンから指を離し、もう一度シャッターボタンを押すと、続きから撮影が開始し、3コマ目を撮影してフィルムの給送が止まります。フィルム給送モードが“S”のときでも、シャッターボタンを押し続けると連続撮影できます。

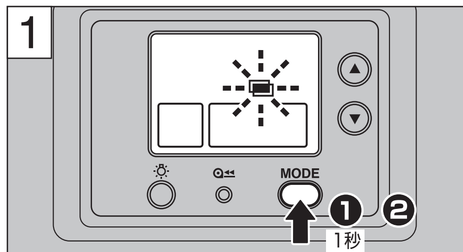
応用編

AEBの途中で撮影画面サイズを切り替えることはできません。撮影画面サイズを切り替えると、フィルムカウンター表示部の“P”が点滅し、シャッターロックが掛かります。

AEBモードは撮影後も保持されます。
AEBモードは次のいずれかの方法で解除できます。
- 電源を“OFF”にする。
- MODEボタンを押す。

多重露光

撮影後もフィルムを給送せず、同じコマに数回撮影できます。



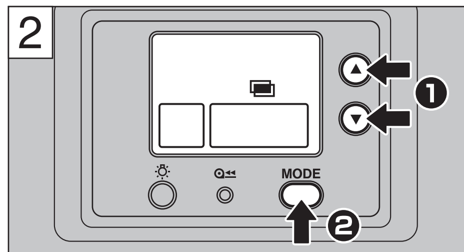
❶電源を入れ、MODEボタンを約1秒間押します。

☞設定できるモード以外の表示が消え、各種モード設定に入ります。

❷MODEボタンを押して、"▭"を点滅表示させます。

☞多重露光の設定に入ります。

＊多重露光モードは、設定したコマ数の撮影が終わると解除されます。



❶▲▼ボタンを押して、"▭"を点灯させます。

☞"▭"点滅または消灯は多重露光を選択しないことを表します。

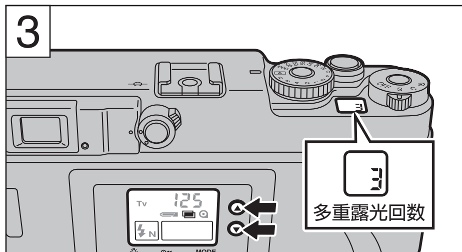
❷MODEボタンを押して登録します。

☞設定が登録され、次の項目の設定に移ります。

＊シャッターボタン半押し、または5秒間無操作でも登録できます。この後、撮影時の表示に変わります。

❸シャッターボタンを半押しして、"▭"が登録されていることを確認します。

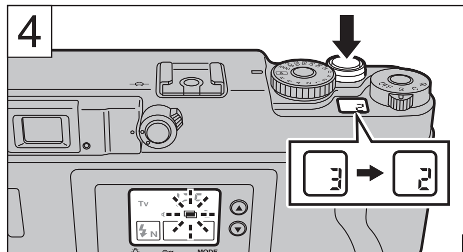
●AEBモード設定時（→40ページ）は多重露光モードを設定できません。
●多重露光モードは次のいずれかの方法で解除できます。
- 電源を"OFF"にする。
- MODEボタンを押す。



“▬”が表示されていることを確認した後、
▲▼ボタンを押して、多重露光回数を選択します。

☞2回～9回から選択できます。
☞選択した多重露光回数がフィルムカウンター表示部に表示されます。

＊多重露光を選択したときは、フィルムカウンターにフィルム残数は表示されません。



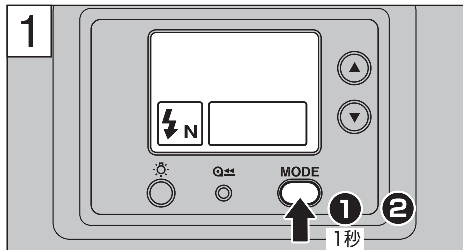
シャッターボタンを押します。

☞撮影ごとにフィルムカウンター表示部の多重露光回数が逆算表示され、モード表示部の“▬”が点滅します。
カウンターに“1”が表示された後にシャッターボタンを押すと、撮影が終わり、フィルムが給送されます。

多重露光の途中で撮影画面サイズを切り替えることはできません。撮影画面サイズを切り替えると、フィルムカウンター表示部の“P”が点滅し、シャッターロックが掛かります。

シンクロタイミング

フラッシュの発光タイミングを選択できます。N：ノーマルシンクロはシャッターの先幕が開いたときにフラッシュが発光し、R：リアシンクロはシャッターの後幕が閉じる直前にフラッシュが発光します。

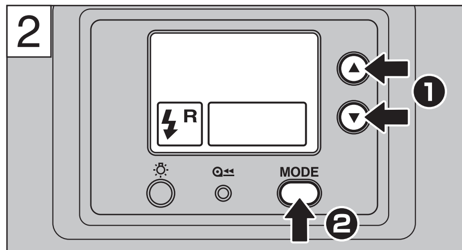


❶電源を入れ、MODEボタンを約1秒間押します。

☞設定できるモード以外の表示が消え、各種モード設定に入ります。

❷MODEボタンを押して、“ϟ”を表示します。

☞シンクロタイミングの設定に入ります。



❶“ϟ”が表示されていることを確認した後、▲▼ボタンを押して、シンクロタイミングを選択します。

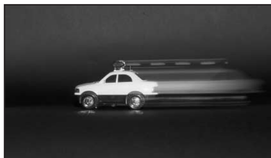
❷MODEボタンを押して登録します。

☞設定が登録され、次の項目の設定に移ります。

＊シャッターボタン半押し、または5秒間無操作でも登録できます。この後、撮影時の表示に変わります。

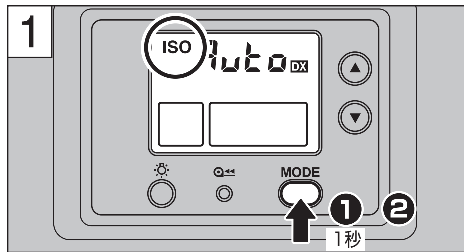


ノーマルシンクロ



リアシンクロ

フィルム感度の設定



❶電源を入れ、MODEボタンを約1秒間押します。

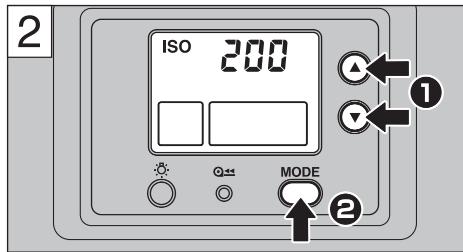
☞設定できるモード以外の表示が消え、各種モード設定に入ります。

❷MODEボタンを押して、"**ISO**"を表示します。

☞フィルム感度の設定に入ります。

＊"Auto DX"にセットしているときにDXコード方式のフィルムを装てんすると、自動的にフィルム感度が設定されます。

> フィルム感度を"Auto DX"にセットしているときにDXコードのないフィルムを装てんすると、フィルムは送られません。一度裏ぶたを開け、マニュアルでフィルム感度を設定してから、再度フィルムを装てんしてください。



❶▲▼ボタンを押して、フィルム感度を設定します。

❷MODEボタンを押して登録します。

☞設定が登録され、次の項目の設定に移ります。

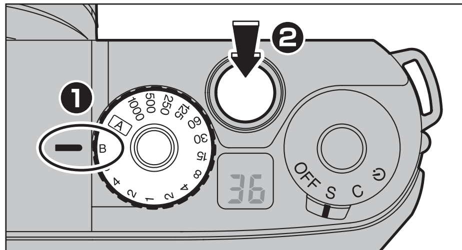
＊シャッターボタン半押し、または5秒間無操作でも登録できます。この後、撮影時の表示に変わります。

■設定可能範囲

Auto DX	DXコードによる自動設定
25〜3200	マニュアルによるフィルム感度設定 ISO 25〜3200まで可能 （1/3ステップ刻み）

応用編

バルブ撮影



❶シャッタースピードダイヤルを "B" に合わせます。

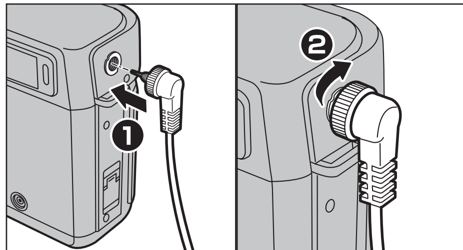
☞シャッターボタンを半押しすると、ファインダー表示部に " bu l"、モード表示部に " Tv bu lb " と表示されます。

❷シャッターボタンを押している間、シャッターが開きます。

■バルブ撮影可能時間：最長540秒

カメラブレ防止のため、しっかりと三脚などに固定し、別売リモートレリーズを使用してください。

リモートレリーズ



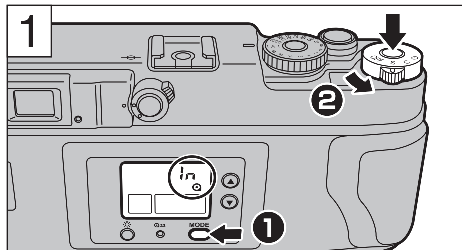
別売の専用リモートレリーズスイッチが必要です。

電源をOFFにしてから、
❶レリーズソケットにリモートレリーズスイッチを差し込み、
❷リモートレリーズスイッチのねじを止まるまで回します。

＊リモートレリーズスイッチを使用すると、シャッターボタン半押しでのAE測光ができません。あらかじめシャッターボタンを半押しして露出を確認、設定してからリモートレリーズを作動させてください。
＊バルブ撮影などでシャッターを開いたままの状態にしたいときには、リモートレリーズスイッチのボタン部を押しながらHOLD側にスライドしてください。HOLDにしている間シャッターが開き、HOLDを解除したときにシャッターが閉じます。
＊市販のリモートレリーズは故障の原因になりますので使用しないでください。別売の専用リモートレリーズスイッチをご使用ください。

フィルム巻き戻し設定

巻き戻したフィルムの先端をすべてパトローネに巻き込む／先端をパトローネの外に残すのいずれかを選択できます。



電源を切った状態で、
❶MODEボタンを押しながら、
❷モードダイヤルレバーを “OFF” から “S”、“C” または “🕙” に合わせます。

2

❶▲▼ボタンを押して、フィルム巻き戻し方式を選択します。
❷MODEボタンを押して登録します。

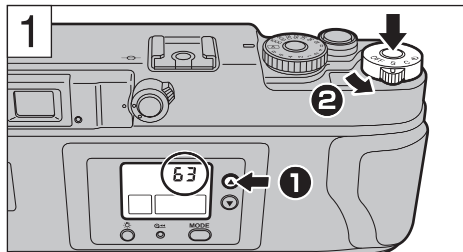
＊シャッターボタン半押し、または5秒間無操作でも登録できます。この後、撮影時の表示に変わります。

■設定可能なフィルム巻き戻し方式

方　式		内　容
In		フィルムの先端をすべてパトローネに巻き込みます。
out		フィルムの先端をパトローネの外に残します。

＊“out ” 設定時、巻き戻したフィルムを誤って使用しないようにご注意ください。

トータルショット数表示



電源を切った状態で、
❶▲ボタンを押しながら、
❷モードダイヤルレバーを "OFF" から "S"、"C" または "ⓢ" に合わせます。

2

▲ボタンを押している間、モード表示部にトータルショット数が表示されます。

＊▲ボタンを離すと、通常の撮影モード表示に戻ります。

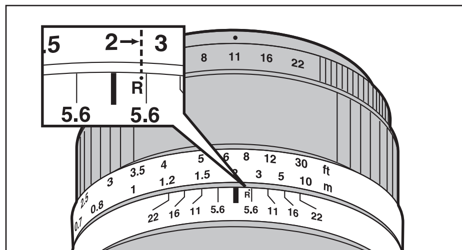
■表示例

モード表示部	トータルショット数
63	630ショット

＊表示された数値×10＝トータルショット数です。オーバーホール（約10000ショット）や定期点検（約5000ショット）の目安にご利用ください。

＊出荷検査のため、新品でもトータルショット数が200ショット程度になっている場合がありますので、あらかじめご了承ください。

赤外撮影表示



赤外撮影では、可視光と赤外光でピント位置が異なるため、ピントのズレを補正する必要があります。
ピントの合った距離を指標のとなりのRマーク（赤外補正マーク）にずらしてください。

＊赤外撮影は、赤外線フィルムとフィルターを使用します。
＊詳しくは赤外線フィルムの使用説明書に従ってください。

被写界深度表

錯乱円：0.03

撮影距離		0.7m	0.8m	1.0m	1.2m	1.5m	2.0m	3.0m	5.0m	10m	∞
f＝30mm 1:5.6	F5.6	0.63～0.80	0.70～0.93	0.85～1.22	0.98～1.55	1.17～2.10	1.45～3.27	1.90～7.37	2.52～∞	3.35～∞	4.97～∞
	F8	0.60～0.85	0.67～1.00	0.80～1.35	0.92～1.76	1.08～2.52	1.30～4.46	1.65～19.1	2.10～∞	2.64～∞	3.53～∞
	F11	0.57～0.93	0.63～1.12	0.74～1.59	0.84～2.19	0.97～3.55	1.14～9.29	1.40～∞	1.70～∞	2.03～∞	2.52～∞
	F16	0.53～1.08	0.58～1.35	0.67～2.12	0.75～3.39	0.85～8.52	0.97～∞	1.15～∞	1.34～∞	1.54～∞	1.80～∞
	F22	0.48～1.40	0.52～1.93	0.59～4.10	0.65～16.2	0.72～∞	0.81～∞	0.92～∞	1.04～∞	1.15～∞	1.29～∞
f＝45mm 1:4	F4	0.67～0.73	0.77～0.84	0.95～1.06	1.12～1.29	1.38～1.65	1.78～2.28	2.53～3.70	3.79～7.35	6.09～28.3	15.3～∞
	F5.6	0.66～0.74	0.75～0.85	0.92～1.09	1.09～1.33	1.33～1.72	1.70～2.42	2.37～4.10	3.45～9.14	5.24～119	10.9～∞
	F8	0.65～0.76	0.73～0.88	0.90～1.13	1.05～1.40	1.27～1.83	1.61～2.66	2.18～4.83	3.06～13.9	4.39～∞	7.71～∞
	F11	0.63～0.79	0.71～0.92	0.86～1.20	1.00～1.51	1.20～2.02	1.49～3.09	1.96～6.50	2.64～56.0	3.57～∞	5.47～∞
	F16	0.61～0.83	0.68～0.98	0.81～1.31	0.94～1.69	1.11～2.37	1.35～4.00	1.72～12.7	2.22～∞	2.82～∞	3.89～∞
	F22	0.58～0.90	0.64～1.08	0.76～1.50	0.86～2.03	1.00～3.14	1.19～6.92	1.47～∞	1.81～∞	2.19～∞	2.76～∞
f＝90mm 1:4	F4			0.99～1.01	1.18～1.22	1.47～1.53	1.94～2.06	2.87～3.15	4.63～5.43	8.61～11.9	59.8～∞
	F5.6			0.98～1.02	1.17～1.23	1.45～1.55	1.92～2.09	2.81～3.21	4.49～5.64	8.14～12.9	42.5～∞
	F8			0.97～1.03	1.16～1.24	1.44～1.57	1.89～2.13	2.74～3.31	4.31～5.95	7.56～14.8	30.2～∞
	F11			0.96～1.04	1.14～1.26	1.41～1.60	1.84～2.19	2.65～3.46	4.08～6.47	6.87～18.5	21.5～∞
	F16			0.95～1.06	1.12～1.29	1.38～1.65	1.78～2.28	2.53～3.70	3.80～7.37	6.09～28.8	15.3～∞
	F22			0.93～1.09	1.09～1.33	1.33～1.72	1.71～2.42	2.38～4.10	3.46～9.20	5.25～136	10.8～∞

（m）

取扱上のお願い

カメラは精密機械です。取り扱いには次のようなことに十分ご注意ください。

1．カメラの清掃

- 汚れをふき取るのにシンナー、アルコールなどの溶剤は使用しないでください。
- 撮影前後に、カメラの清掃を行ってください。ブロアーブラシでほこりを払い、カメラの外側はシリコンクロスなどの柔らかい布でふいてください。
- フィルム室に汚れやほこりがあると、フィルムを傷つけることがあります。特にカメラ内部の清掃は常に心掛けてください。

2．レンズの清掃

- レンズのすり傷は、想像以上にシャープネスの劣化につながります。何となくコントラストが低下し、しまりのない写真になったら、すり傷が原因になっていることが考えられます。
  そこで、レンズ清掃は以下のように注意深く行ってください。
  ①モードダイヤルレバーを“OFF”にしてください。
  ②レンズ表面のごみ、ほこりをブロアーブラシで吹き飛ばしてください。
  ③クリーニングペーパーに市販のレンズクリーニング液を浸して、軽くレンズの中心から周辺に向かって、回しながらふき取ります。
  ④レンズの汚れがとれたら、乾いたクリーニングペーパーでレンズクリーニング液のふきむらをレンズの中心から周辺に向かって、回しながら軽くふき取ります。
- レンズにごみ、ほこりなどが付いているとき、息を吹きかけてシリコンクロスなどでふくことは絶対避けてください。すり傷発生の原因になります。
- 距離計窓、ファインダーについても、レンズ清掃と同じように清掃を行ってください。距離計窓の傷は、正しい距離測定に支障を来すことがあります。同様にファインダーの汚れ・傷はファインダーの見えに影響を与えることがあります。

3．液晶表示について

- 約60°Cの高温では、液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることがありますが、これは液晶の性質によるもので故障ではありません。

4．電池について

●低温下では、電池は性能が低下する性質を持っています。常温に戻れば性能は回復します。低温下での撮影には、新しい電池を使用し、予備の電池をポケットなどに入れて、温めながら交互に使うなどの方法をとってください。消耗した電池では低温時、カメラが作動しなくなることがあります。

●電池容量の表示が“ ”になりましたら電池交換が必要となりますので、予備の電池と交換してください。

5．使用温度範囲

●このカメラの使用温度範囲は−10°C～+40°Cです。

6．保　管

●夏期は、高温の自動車の中や湿気のある場所に長時間放置しないでください。カメラ本体およびレンズには必ずレンズキャップをしてください。

●カメラを保管するときは、湿気、ほこり、熱の影響のないところに収納してください。

●ナフタリンなど防虫剤のガスは、カメラにもフィルムにも有害ですから、たんすなどへの収納は避けてください。

7．フィルムの出し入れ

●必ず直射日光を避けて行ってください。

アフターサービスについて

お手持ちの製品が故障した場合には、次の要領で修理させていただきます。ご購入店または富士フイルムサービスステーションに直接お申し出ください。それ以外の責は、ご容赦いただきます。なお、保証、使い方などのご不明な点につきましても、裏面記載の弊社カメラ事業部 営業部かお近くの富士フイルムサービスステーションをご利用ください。お問い合わせ、修理に関しましては日本国内に限らせていただきます。

● 無料修理

故障した製品についてはご購入年月日、販売店名の記入された、ご購入日より1年以内の保証書が添付されている場合には、保証書に記載されている内容の範囲内で、無料修理させていただきます。

＊詳しくは、保証書に記載されている製品保証規定をご覧ください。

● 有料修理

保証期間を過ぎた修理は、原則として有料となります。保証期間内であっても、下記のような場合はすべて有料となります。また運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。

1. 修理ご依頼の際、保証書の提示または添付のないもの。
2. 保証書にご購入年月日、販売店名が記入されていない場合、または記載事項が訂正された場合。
3. 富士フイルムサービスステーション以外で分解、修理されたもの。
4. 火災、地震、風水害などの天災による損害、故障。
5. お取扱上の不注意（使用説明書以外の誤操作、落下、衝撃、水掛かり、砂・泥の付着、カメラ内部への水・砂・泥の入り込みなど）、保管上の不備（高温多湿やナフタリン、しょうのうの入った場所での保管）、お手入れの不備（かび発生など）により生じた故障。
6. 前記以外で弊社の責に帰すことのできない原因により生じた故障。
7. 各部点検、精密検査、分解掃除などを特別に依頼されたもの。

● 修理不能

浸（冠）水、強度の衝撃、その他で損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるもの、および部品の手当が困難なものなどは修理でき

ない場合もありますので、お近くの富士フイルムサービスステーションにお問い合わせください。

● 修理部品の保有期間

この製品の補修用部品は、製造打ち切り後10年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。
なお、部品保有期間終了後でも修理できる場合もありますので、詳しくはご購入店かお近くの富士フイルムサービスステーションにお問い合わせください。

● 修理ご依頼に際してのご注意

1. 保証規定による修理をお申し出になる場合には、必ず保証書を添えてください。
2. ご購入店や富士フイルムサービスステーションで、ご指定の修理箇所、故障内容を詳しくご説明ください。故障の状態によっては、事故となったフィルムなどを添えてくださると修理作業の参考になります。
3. 修理箇所のご指定がないときは、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
4. 修理料金が高く見込まれる修理のときは「○○○○円以上は連絡してほしい」と金額をご指定ください。ご指定のないときは13,000円以内の料金で修理完了する場合は修理をすすめさせていただきます。
5. 修理に関係のない付属品類は、紛失などの事故を避けるため、修理品から取り外してお手もとに保管してください。
6. 修理のために製品を郵送される場合は、ご購入時の外箱などに入れてしっかり包装し、必ず書留小包でお送りください。
7. 修理期間は故障内容により多少違いますが、厳重な調整検査を行いますので、普通修理品の場合は富士フイルムサービスステーションで、お預かりしてから通常7〜10日位をご予定ください。

主な仕様

型式　レンズ交換式　距離計連動カメラ　標準／フルパノラマ切り替え式

画面サイズ　標準画面：24mm×36mm　フルパノラマ画面：24mm×65mm

使用フィルム　135（35mm）フィルム

撮影枚数　　　　　　　　　　　＊同一フォーマットで撮影した場合

	36EXP	24EXP	12EXP
標準	36枚	24枚	12枚
フルパノラマ	20枚	13枚	6枚

撮影レンズ（別売）　スーパーEBCフジノン　バヨネット交換式

●1：5.6　f＝30mm（8群10枚構成）　撮影距離　0.7m〜∞、フィルター径：φ58mm
●1：4　f＝45mm（6群8枚構成）　撮影距離　0.7m〜∞、フィルター径：φ49mm
●1：4　f＝90mm（7群9枚構成）　撮影距離　1.0m〜∞、フィルター径：φ49mm

	標準（24mm×36mm）画角		フルパノラマ（24mm×65mm）画角		
	対角	長辺	対角	長辺	35mm判相当
30mm	71.6°	61.9°	97.8°	94.1°	f=16.7mm
45mm	51.4°	43.7°	74.4°	71.0°	f=25mm
90mm	27.0°	22.7°	41.8°	39.5°	f=50mm

＊フォーカスリング、絞りリング装備　絞り：F4〜F22（45mm、90mm）、F5.6〜F22（30mm）　0.5ステップ刻みセット

距離合わせ　レンズフォーカスリングと連動する二重像合致式連動距離計

ファインダー　採光式ブライトフレーム（自然光）ファインダー　パララックス自動補正

視野枠：レンズ交換で45mm、90mm自動切り替え
標準／フルパノラマ切り替えレバーで標準／フルパノラマ切り替え

倍　率：レンズに対応し倍率変化
f＝45mm　0.45倍　f＝90mm　0.66倍

視野率：85%以上

ファインダー内表示：露出補正マーク、シャッタースピード、露出インジケーター

＊30mmレンズは専用ビューファインダーを使用

主な仕様

シャッター	フォーカルプレーンシャッター シャッタースピード：B、8秒～1/1000秒（絞り優先AE時：1/2ステップ刻みで表示、マニュアル露出時：1ステップ）　シンクロスピード：1/125秒以下　セルフタイマー（10秒、2秒）
フィルム感度	DXオートセット、マニュアルセット ISO 25～3200　1/3ステップ刻み
フィルム送り	順装てん、プレワインド式　自動巻き上げ、自動巻き戻し 給送モード：シングル、コンティニアス
フィルムカウンター表示	逆算表示（バックライト照明付き）　最終コマ巻き取り後“E”表示、フィルム巻き戻し方式変更可能 標準／フルパノラマ自動切り替え（フルパノラマ時、“P”表示）
露出制御	TTLシャッター幕面測光（中央部重点平均測光） 連動範囲：EV4（F4）～EV19（F22）（ISO 100時）、シャッターボタン半押しでAEロック
撮影モード	絞り優先AE、マニュアル露出
露出補正	±2EV　1/2ステップ刻み
オートブラケット	0.5EV、1.0EV選択 標準→アンダー→オーバー
フラッシュ	シンクロタイミング：ノーマルシンクロ、リアシンクロ
モード表示	シャッタースピード、フィルム感度、露出補正、AEB、多重露光、シンクロタイミング、セルフタイマー、フィルム巻き戻し方式、トータルショット数、電池容量　＊バックライト付き
電源	リチウム電池 CR2　2本（6V）
その他	ホットシュー、シンクロソケット、レリーズソケット、三脚ねじ穴、フィルム確認窓
寸法・質量（重量）	ボディ単体：W166mm×H82mm×D51mm　745g（電池なし） レンズ30mm：φ66mm×L45.5（53.5）mm　295g レンズ45mm：φ60mm×L40（47）mm　235g レンズ90mm：φ60mm×L66（73）mm　365g
同梱付属品	ストラップ　リチウム電池（2本）

＊仕様・性能は、予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

Memo

Memo

Memo



富士写真光機株式会社

●お買い上げ製品についてのお問い合わせは…

富士写真光機株式会社　カメラ事業部 営業部　〒331-9624 埼玉県さいたま市北区植竹町1丁目324番地　TEL（048）668-2236

● 光機製品のお問い合わせはこちらでも承ります

富士写真フイルム株式会社 札幌営業所内（富士写真光機お問い合わせ電話）	〒060-0002 札幌市中央区北2条西4-2 札幌三井ビル別館	TEL（011）218-5575
富士写真フイルム株式会社 仙台営業所内（富士写真光機お問い合わせ電話）	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル	TEL（022）216-6960
富士写真フイルム株式会社 東京販売部内（富士写真光機お問い合わせ電話）	〒106-8620 東京都港区西麻布2-26-30	TEL（03）3406-2387
富士写真フイルム株式会社 名古屋営業所内（富士写真光機お問い合わせ電話）	〒460-0008 名古屋市中区栄2-10-19 名古屋商工会議所ビル	TEL（052）203-5262
富士写真フイルム株式会社 大阪支社内（富士写真光機お問い合わせ電話）	〒541-0051 大阪市中央区備後町3-5-11	TEL（06）6205-6421
富士写真フイルム株式会社 広島営業所内（富士写真光機お問い合わせ電話）	〒732-0816 広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター	TEL（082）250-0755
富士写真フイルム株式会社 福岡営業所内（富士写真光機お問い合わせ電話）	〒812-0018 福岡市博多区住吉3-1-1	TEL（092）281-0255

●お買い上げ製品の修理の受付は…

札　幌：富士フイルムサービスステーション	〒060-0002 札幌市中央区北2条西4-2 札幌三井ビル別館	TEL（011）222-3973
仙　台：富士フイルムサービスステーション	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル	TEL（022）265-2149
東　京：富士フイルムサービスステーション	〒105-0022 東京都港区海岸1-9-15 竹芝ビル	TEL（03）3436-1315
富士フォトサロン・東京	〒104-0061 東京都中央区銀座5-1 銀座ファイブ	TEL（03）3571-9411
名古屋：富士フイルムサービスステーション	〒460-0008 名古屋市中区栄1-12-19	TEL（052）202-1851
大　阪：富士フイルムサービスステーション	〒541-0051 大阪市中央区備後町3-2-8 大阪長谷ビル	TEL（06）6260-0915
富士フォトサロン・大阪	〒530-0001 大阪市北区梅田1-9-20 大阪マルビル	TEL（06）6346-0222
広　島：富士フイルムサービスステーション	〒732-0816 広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター	TEL（082）256-3511
福　岡：富士フイルムサービスステーション	〒812-0018 福岡市博多区住吉3-1-1	TEL（092）281-4863

※土曜、日曜、祝日、年末年始は休業させていただきます。その他夏期等休業させていただく場合があります。
●東京、名古屋、大阪：富士フイルムサービスステーションは、通常の土曜日（祝日、年末年始、夏期休暇以外）は営業しております。
ただし、受け渡し業務のみとなります。
●富士フォトサロン・東京、大阪は受け渡し業務のみです。

●富士フイルム製品のお問い合わせは…

お客様コミュニケーションセンター（月曜日～金曜日　午前9：30～午後5：00）TEL（03）3406-2981
富士フイルム ホームページ　http://www.fujifilm.co.jp/

Printed in Japan

FGS-305106-FG-01